

平成28年第1回 総合教育会議 会議録

1 日時 平成28年6月23日(木) 午後3時30分から午後4時47分まで

2 場所 碧南市役所4階 庁議室

3 出席者

(1) 碧南市長

(2) 教育委員会

委員 杉浦 敏機、委員 加藤 讓、委員 高橋世利子、委員 池田香代子

教育長 高松 透

(3) 事務局職員

総務部長 鈴木友喜広、教育部長 鈴木重幸、経営企画課長 岡崎康浩、経営企画課

主幹 三島 翁、経営企画課政策推進係長 本多 真、経営企画課政策推進担当係長

鈴木好美

(4) 関係職員

学校教育課長 川隅義孝

4 傍聴者 0人

5 議題

(1) 市長3期目のマニフェストについて

(2) いじめ防止対策推進のための取り組みについて

(3) 意見交換

□市長あいさつ

(市長)

いつもありがとうございます。本日、今年度第1回目の総合教育会議ということですが、制度改正によりまして、この総合教育会議が設けられ、これまで市長は教育に関してあまり口を出すことがなかったのですが、教育委員のみなさんと相談しながら教育行政を進めていくということになりました。

今日は、改選後初の会議ということもありまして、3期目マニフェストについてですとか、いじめ防止対策についてですとか、そのような内容で進めていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(総務部長)

それでは、ここからの議事の進行は今回の招集者である市長にお願いいたします。

□議題（１）市長３期目のマニフェストについて

市長がマニフェストちらしに基づき説明した。

<説明>

(市長)

では、まず議題（１）市長３期目マニフェストについてですが、３期目がこの４月２９日から始まりました。市政というのは、選挙で市民の皆様の負託を受けて行うもので、具体的に何をやるかはマニフェストや総合計画等で示しております。総合計画は１０年ごとに策定し、より具体的なものは実施計画というかたちで細かく作成し、ローリングプランで毎年修正を加えながら実施しています。

マニフェストは選挙で承認を受けたという事になるのですが、今回は無投票だったため、それを市民の皆様にアピールする機会がありませんでしたので、当選後、各方面でマニフェストの浸透を進めてまいりました。

教育の部分で、どのようなことを掲げているかと言いますと、ソフト的な部分については、教育委員会にお任せすればいいのですが、施設や環境といったハード的なものは、市の財政で手当てしていくものと認識し、掲げております。

③の教育・文化・スポーツ・公園の部分に教育に関わる大方のものが書いてあります。

①の安心・安全の部分ではスクールガードに触れていますし、⑧の定住・移住・人口のところでは、教育に関連する部分として子育て支援の充実を掲げてます。

③では、美術館収蔵庫についてもありますし、また碧南緑地整備についても掲げてます。碧南緑地のビーチコートについては、オリンピックの事前合宿地に申請していきたいということがあり、早急に整備を進めようとしているところです。まず、全体的な設計を完成させるため、６月補正でその予算をお願いしております。

トヨタ自動車がビーチバレー部を設立され、来年の春には衣浦工場内にビーチコートを整備し、本格的にスタートします。この機会に合わせて、愛知県内にはない、国際大会などにも使用できるビーチコートを作っていこうというものです。

水族館のビオトープについては、花の木広場にビオトープを整備していこうというものです。教育施設の維持補修の拡充は外壁改修を中心に進め、また、教員の資質向上の

ための研修の充実と場所の確保もやっていきたいというものです。

□議題（２）いじめ防止対策推進のための取組みについて

学校教育課長が資料１に基づき説明した。

〈意見・質疑〉

（市長）

続きまして、議題（２）いじめ防止対策推進のための取組みについてご審議いただきたいと思います。資料１につきまして、学校教育課長から説明をお願いいたします。

（加藤委員）

このいじめ問題専門委員会は定期的に年１回開催すると説明にありましたが、臨時会が開催されることはあるのですか。

（学校教育課長）

はい、重大事態として調査する必要が生じた時に開催することになります。

（加藤委員）

では、その判断は誰が行うのですか。

（学校教育課長）

教育委員会で判断していただきます。

（加藤委員）

いじめ問題専門委員会の委員の方はお忙しい方々と思いますが、臨時で開催が必要な場合でも出席していただだけそうですか。

（学校教育課長）

はい、重大事態のときはこちらを優先していただけるようお願いしております。

(市長)

臨時の時は、夜間に開催でもいいですね。みなさんの集まれる時間帯で開催するのがいいと思います。

(市長)

この会議の中で、委員の方は何かおっしゃってましたか。

(学校教育課長)

武田委員は、児童相談所の職員の方なので、いじめに関わらず学校の様子を細かく知ることができるよとおっしゃってました。

(杉浦委員)

不登校の数は増えていますか。また、他市と比べてどうですか。

(教育長)

増加傾向にあります。また、他市との比較は今、資料を持ち合わせていないため詳細は分かりませんが、県平均より少ない状況です。

(池田委員)

生徒指導に関して、地域や関係機関との連携が大切だと思いますが、不登校の子で精神疾患を持っている子どもについて、精神科の先生などと連携はとっているのでしょうか。

(学校教育課長)

現在は、個々の保護者がいろいろなところにコンタクトを取って、その子にあった医療機関にかかっているといった状況です。

(教育長)

市には相談室があって臨床心理士の先生がいます。そして各学校にはスクールカウンセラーがいます。問題は、そこに来てくれる人はいいいのですが、来てくれない人への対応です。

(池田委員)

そういう人達を地域がどういうふうの後押ししていくかだと思います。実際、PTAでも問題となっていました。

(教育長)

権限のない人は、なかなか立ち入れないですね。たとえPTAの会長さんが行っても拒絶されてしまうことがほとんどだと思います。とても難しいと思います。

(池田委員)

今後の課題ですね。

(高橋委員)

学校にはスクールカウンセラー、心の教室相談員、スクールアシスタント等いろいろみえるのですが、子どもは区別できていないような気がします。一番身近で信頼できる担任の先生に相談することも多いと思います。子どもにとっては、全部分かっている担任の先生が一番相談しやすいのですが、先生は大変忙しく、先生の負担も増えてしまいます。また、専門の相談機関に相談に行くのは周りの目が気になり、なかなか行けないようです。もう少し保護者、子ども達が相談しやすい環境を作っていただくと、不登校が減るのではないかと思います。いじめられているわけでもないのに登校できない、友達関係が上手くいっているのに登校できない、そういった精神的に登校できないという子どもが相談しやすい環境を作ってほしいと思います。

(学校教育課長)

学校では職員会の後に時間を作り、気になる子について情報交換をしております。また、特別支援コーディネーターが、この子はカウンセラーと話をした方がいいとか、この子は市の相談員と話をした方がいいなどと、個々のケースに合わせて調整をしながら対応しています。しかしながら、これなら確実に不登校が減るというものはないので、模索しながら対応していただいているという状況です。

(教 育 長)

今の不登校は原因が特定できないことが多くあります。友達とのトラブルが原因ならそれを排除すればいいのですが、発達障害や家庭の問題を抱えている子が多くいて、難しい状況にあります。そういう状況をきちんと受け止められる、そういう教師でありたいですね。高橋委員の言われたことに私も同感です。

(市 長)

他にご意見等ありますか。

〈意見・質疑なし〉

(市 長)

では、議題（２）については以上とし、議題（３）意見交換に入ります。

□議題（３）意見交換

(市 長)

これにつきましては、特にテーマは決めておりませんので、日頃の問題意識など、今お話いただいた内容以外に何かありましたらお話ください。

(杉 浦 委 員)

市長がよく使われる言葉で、「世界に誇る碧南市」という言葉があるのですが、碧南市としてはどの辺りをトップセールスとして考えているのですか。

(市 長)

何かに特化してイメージしているわけではなく、こういう気持ちで職員にがんばって働いてもらえると何か出てくるのでは、という考えです。最近では、美術館がそうですね。この人口規模でこの入館者数というのは珍しく、大変盛り上がってきていると思います。あおいパークもそうですね。また、ビーチバレーも今後そうなってほしいと思います。世界のトップを目指していれば、そのような結果が伴ってくるということです。

(杉浦委員)

碧南市は今、人口が減っています。保育料については第3子から無料となっていますが、独身の人にとってはあまりにもハードルが高すぎます。例えば第1子から保育料を無料にし、ハードルを下げると人口増加にもつながるのではと思います。今後も市長のよいアイデアを施策に活かして行ってほしいと思います。

(市長)

人口増加対策については、この6月補正で不妊治療助成の拡大をあげており、これが議決されれば、愛知県で1位の制度になります。碧南市と比較的規模が似ている東海市では出生率1.82と県内1位で、不妊治療助成の制度が充実しており、この制度によって年30人から40人の子どもが生まれているそうです。東海市の制度は年齢制限があるのですが、碧南市は年齢制限を設けず、当市の出生率の1.62を東海市の1.82に近づけないかと思っています。

(池田委員)

若い人が働く魅力のある街にしてほしいと思います。先日視察に行った横浜市の日本語学校では大学生がボランティアで日本語を教えているのですが、市と大学が提携をされていて、この活動をすることで単位が取得できるようになっているそうです。碧南市も大学と提携して、言葉が分からなくても遊びを通じて言葉を理解していくようなボランティアの場を導入できるとよいと思います。

(学校教育課長)

市と大学の提携については、今年度から行われます。外国人を対象とした指導ではないですが、ハートフレンドのように配慮が必要な子の相手になるという週1回の活動を、単位として認めるといふ大学がありますので、現在調整しています。

(池田委員)

学校だけでなく、市役所や民間の企業でもそういった場を広げて、単位として認めてもらえれば、みなさん戻ってくる可能性が高まると思います。

(経営企画課長)

美術館のワークショップでも愛知教育大学大学院生がお手伝いに来てくれて、それで単位をとるといふ連携をしています。大学の中だけでなく、社会に出て、そういったところで知識を積むという授業も今、大学では行われています。そこで魅力を発見していただいて、また戻ってきていただけるような機会になればよいと思っています。

(高橋委員)

教育委員として1年半が過ぎ、碧南市の良さが分かってきたのですが、私の周りの人はまだ知らない人が多く、残念に思います。PRの仕方を工夫することで、多くの方が碧南市の良さをもっと知ることができると思います。

(市長)

そこが最大の課題だと捉えています。今後、プロモーションの仕方を勉強する予定です。ここ数年の課題です。

(加藤委員)

マニフェストを見ていますと、様々な部分を網羅しており本当によくできているなど感じます。一方で感じるのは、教育の分野で言いますと、いじめも不登校も数十年前とは様変わりしております。また犯罪も変わってきていると感じます。そういう認識で子ども達を見ていけないといけないということを強く思います。新しい犯罪への対応を意識していかないといけないと思っています。

(市長)

そうですね。職員も含めて、しっかりと業務にあたっていればそういうものも防げると思うのですが、いい加減にやっていると隙ができてしまうと思いますので、全てがそうではないと思いますが、誠心誠意、業務にあたるようにしたいと思っています。

(教育長)

私もこのマニフェストには、教育の重大な問題を掲げていただいて、本当にありがたいなと感じております。

教育の場においては、先生が子どもや保護者から信頼されることが一番だと思います。それを市長が理解した上で施策を考えていてくれて、とてもありがたく思います。欲を言えば、やってほしいことはたくさんありますが、市長は教育だけにお金をかけるわけにもいかず、市全体のバランスを考えてやっていかなければなりません。要求はしていきますが、いろいろな情報を共有しながら、共通理解を図りながらやっていきたいと思っていますのでこれからもぜひご協力お願いいたします

(市長)

はい、よろしく申し上げます。他にご意見等ありますでしょうか。

<意見・質疑なし>

(市長)

では、以上を持ちまして議題（3）意見交換を終了とさせていただきます。